

2014年度

JICA研修コースの実績紹介

「低炭素化社会実現のための発電技術(C)」



2015年7月13日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

1. 研修コースの紹介

1) コースリーダー / 矢頭 昭治



2) 研修コース 名

- 和文： 低炭素化社会実現のための発電技術(C)
- 英文： Alternative Power Generation Technology for Low- Carbon Society

3) 研修受入れ期間： 2015/2/18 ~ 2015/3/26

4) 参加研修員： 5名 (4カ国)

参加国内訳

- ①アンティグア・バーブーダ ②ブータン ③セントビンセント ④ザンビア

【参加研修員の国名と位置】



世界の4カ国から派遣された5名の研修員の皆さんが、北九州市（JICA九州）に集まり、「低炭素化社会実現のための発電技術」に関する技術研修に参加しました。

2. 研修目標

案件 目標

研修内容を踏まえ、低炭素化社会実現のための技術導入の計画が策定・提案される。

自国での実施



単元目標5

：低炭素化社会実現に向けて代替発電技術を導入するためのアクションプランを作成する。

日本での研修



単元目標1

：低炭素化社会に向かう必要性を理解する。

単元目標2

：再生可能エネルギーを生成する技術と、それを促進するための問題点を理解すること。

単元目標3

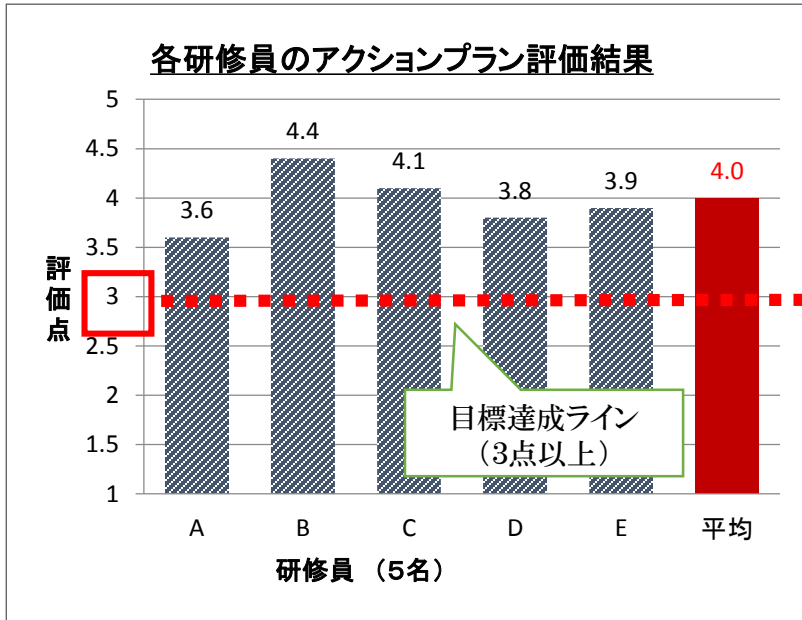
：省エネルギー技術を学ぶこと。

単元目標4

：経済的に地域社会の環境状況を改善する有効な情報を得ること。

3. 研修員の達成度

1 各研修員のアクションプラン総合評価



評価結果は、全員が達成目標をクリアーした

2 評価基準

研修内容を踏まえて作成したA Pの発表内容を評価した。評価基準の判断材料として次の内容を参考に総合評価。

- 1) 低炭素化社会構築のためのテーマとして妥当性について
- 2) 自国での有効性について
- 3) 研修成果の活用度。実現性について



A P発表会の参加者（第三評価者）の評価点が平均3点以上必須基準とした。

◆単元目標を達成しましたか？（研修員への質問表より）

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□3	□2	□1
単元1	3	2	0	0
単元2	3	2	0	0
単元3	1	4	0	0
単元4	1	4		
単元5	3	2	0	0

◆研修員のコメント例

- ・プログラムはとてもよく設計されていた。
- ・環境ミュージアムはとても有益でした。

4. コースリーダーの所感

- 肌寒い冬季終盤からスタートした研修でしたが、環境変化に伴う体調不良の欠席者もなく無事研修が終了できました。各研修員は日本で学んだ知識・技術を十二分に活用して自国発展のため貢献するものと確信します。
- 本コースの研修が円滑に推進できたのは、JICA初め多くの講師の方々並びに研修関係諸氏のご協力とご指導に負うところが多く衷心よりお礼を申し上げます。特に研修コースの両輪として牽引して頂きました鈴木牧子コーディネーターには改めて謝意を申し上げます。
- 世界に目を向けますと経済成長に伴う環境破壊は進行の一途を辿っています。一日も早く環境破壊を抑制して低炭素化社会の実現を推進することが益々重要な課題となっています。
- 3年間継続しました本コースは今回をもって終了となりますが、経済成長に伴う世界規模での環境破壊を抑制して低炭素化社会の実現を推進することは益々重要な課題です。今後、同様な研修が実施される場合に備えて更に有益な内容の検討を推進する所存ですので倍旧のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



5. 研修員スピーチ

研修員の感動スピーチ (於：閉講式)



閉講式でスピーチされたゲルツェンさん(ブータンから参加)

Mr. GYELTSHEN Mewang (通称:ゲルツェンさん)の謝辞 ～研修員代表～


◆和訳全文をご紹介します。

Konichiwa!
(コンニチハ!)

JICA九州 勝田所長、
KITA 上野副理事長、
コースリーダー 矢頭さん、
オフィサー 迫野さん、
コーディネーター 鈴木さん、
そしてご列席の皆様。



上野副理事長より修了証書を授与されたゲルツェンさん



アンティグア・バーブーダ、セントビンセント、ザンビア、から参加した研修員仲間を代表して、謝辞を述べさせていただきますことを光栄に思います。

研修期間中の6週間、北九州滞在中に多くの皆様からサポートをいただき厚くお礼申し上げます。そして、ここで学んだ全てのことに對しJICA、KITA関係者からのもてなしに心から感謝を伝えたいと思います。事業運営や技術について教えてくださった訪問先企業の方々にもお礼を述べたいと思います。

では、このコースがいかによく計画されていたかをお伝えしたいと思います。講義とフィールドワークが良く組み合わせられており、関連職員との深い交流、様々な技術の行程を理解し、自身を振り返り、整理することができました。研修は幅広く、興味深く、有意義で大変満足するものでした。

いろいろな施設で行われた素晴らしい講義と実地見学は、低炭素化社会を目指す必要性を確信させました。日本の方々の知恵と努力によって、茶色の空が青色になり、黄褐色の川が青く澄んだ水に変化した様子は、私達を大いに鼓舞させました。

多様な職歴と役職にも関わらず、この研修は私達一人一人にそれぞれのレベルで何か変化をもたらすことができる、十分な情報と知識を与えてくれました。研修仲間が発表したアクションプランは、研修における試みとその成果を反映したものだったと思います。

そしてこれらの連携と交流は、矢頭さんの綿密な配慮と理想、そしてその理想を実現しようとするスズキさん(鈴木コーディネーター)の専門知識なしにはありえなかったでしょう。これら全ての成果は、ヤズさん(矢頭コースリーダー)とスズキさん(鈴木コーディネーター)のおかげです。



ヴィクターとモリスを前に招き、迫野オフィサーと鈴木コーディネーターへ花束贈呈



最後に、この研修全てにおいて手助けしてくれた迫野さんにもお礼を言いたいと思います。日本が提供する最高の研修だったと確信しています。



ジェフを前に招き、矢頭コースリーダーへ花束贈呈

JICAの今後のさらなる発展をお祈りいたします。

そしてもう一度心から言わせていただきます。

domo arigato gozaimushita

(ドウモアリガトウゴザイマシタ)

6. 研修思い出アルバム

JICA九州で講義



研修先訪問



研修先訪問



研修先訪問



スライドショー
 クリックして写真集をご
 覧下さい